

論文は参照されてはじめて価値あり

程 京 徳

九州大学

研究紹介の欄目に何かを書いて下さいと協会事務局のニュースレター編集部から頼まれました。自分の研究失敗談から始まる論文公表に対する認識のエッセーを「抛磚引玉」させて頂きます。

10年ほど前のことでした。当時、まだ大学院生の私は、ある研究テーマについて、米国にある有名大学の高名な研究者らの結果を少し改善し、ある権威がある国際会議に投稿しました。しかし、戻ってきた査読結果は、当時の私にとってとても悲惨なものでした。ある査読者のコメントは、次のようなものでした：「この論文には新しいアイデアを殆ど述べていない。著者らは単に x x x らの結果を改良しただけで、そんなに重要な貢献を与えていない。」勿論、論文が採録されませんでした。有名大学の高名な研究者らの結果を改善し、まだ「得意」の最中の私は、暫く落ち込んだ後、どのような論文は重要な貢献を与えるもので、価値のあるものであるかについて真剣に考え始めました。従って、その後の私にとって、この失敗は、世界的に参照され引用される、価値のある論文を公表することを目ざして努力する原動力になりました。

学術論文は量よりむしろ質のほうがもっと重要です。今世紀最も偉大な数理論理学者 Godel は、その生涯で30数編の論文しか公表していませんでした。しかし、その30数編の論文の中の多数は、数理哲学或いは数理論理学において多くの新しい研究方向を開拓し或いは重要な問題を解決した「里程碑級」のものでした。それらは、今まで、現在でも、恐らくこれからも数理哲学と数理論理学をはじめ多くの科学分野の沢山の研究者によって度々参照され引用されています。

学術論文は参照されてはじめてその価値が認められます。一度も引用されたことのなかった論文は幾ら公表されても価値のない「紙屑」とあまり変わらないでしょう。現在、研究者の論文の数だけでなくその論文が引用される範囲や回数を用いてその研究者の研究業績を評価する動きは世界的に広がっています。人類社会に対する研究者の真の貢献度を評価する観点から見れば、このような評価方法は確かに科学技術の進歩にとって有益でしょう。

学術の世界において、重要でしかも斬新な研究分野や研究方向の開拓は、間違いがなく人類社会の科学技術の進歩にとって重要な貢献になる。それは、既に提示された問題をうまく解決する能力よりもむしろ問題の発見、認識、定義および提示の高い洞察力を要求する。今世紀最も偉大な物理学者 Einstein は、次のように述べました： "The formulation of a problem is often more essential than its solution, which may be merely a matter of mathematical or experimental skill. To raise new questions, new possibilities, to regard old problems from a new angle, requires creative imagination and marks real advance in science."

私自身が今まで公表した論文の中には「紙屑」も少なくありませんでした。これからは、論文を公表するために論文を書くことではなく、科学技術の発展に貢献するために、新しい研究分野を開拓し、重要な研究方向を見つけ、立派な研究成果を仕上げ、世界的に参照され引用される、価値のある論文をできるだけ多く公表するように一生懸命頑張っていくしたいと思います。